

とうかさん圓隆寺

とうかさん圓隆寺は、浅野長晟（1586 年–1632 年）によって 1619 年に建立されて以来、広島でも最も重要な仏教の聖地のひとつです。広島の大名になると、浅野は自分の領土の統制に力を入れました。長晟に習って、それに続く浅野の領主たちも広島周辺の郊外に仏教の寺を建てていきました。それらの寺はそれぞれ仏教のいろいろな宗派に献呈され、それにより浅野家はそれら宗派のすべてと友好的な関係となりました。

とうかさん圓隆寺は、仏教の戦士の守護神格、稻荷大明神を祀っています。大明神の像は本堂の横の寺に収められており、刀と宝玉（どちらも武士の階級のシンボル）を手に持っています。この聖像は一年に 3 日間、6 月のとうかさんの間だけ開帳されます。

現在、本堂は寺の数少ない建物の 1 つですが、第二次世界大戦以前は、寺の敷地は今の 4 倍ほど広く、いろいろな神格を祀ったお堂がありました。寺全体は 1945 年の原爆で破壊され、敷地の大部分は別の目的で再利用されました。本堂は原爆の直後に再建され、更に 1964 年に東京の夏季オリンピックに間に合うよう再び再建されました。建物は、見た目は伝統的ですが、全面的に鉄筋コンクリートで作られています。本堂の後ろには墓地があり、戦争によって破壊された墓を移動して納めるための場所の 1 つとして選ばれました。中央にある小さな石塔は壊された墓石から作られ、死者のための記念碑となっています。